身それ以上のことは言えません。IMFのなかでの発言権増大うんぬんというようなことを含めて、やはり注目には値する政府なんだろうなという、その程度の印象をもっております。

今日はほんとうにそれとは別のレベルでも、それぞれの４か国について、たいへん教えられることが多く、感謝しております。ありがとうございました。

司会　これからまさに議論がおもしろくなってきそうな気も大いにするのですが、残念ながら時間がまいりました。最後に、村上さんに総括していただきましょう。

閉会挨拶

村上 勇介
京都大学地域研

どうも今日はお忙しいところお集まりいただきまして、ほんとうにありがとうございました。

「混迷する秩序」と言いますか、国際的にもそうですし、国内的にも、たとえば民主主義につきましても、宇山さんや武内さんもお話しされましたが、「Democracy in Retreat」とか「Democracy in Decline」という話がでてきています。

もう一つは、渡邉さんの話題にありましたが、資本に関して、市場マーケットが、ほんとうに市場マーケットなのかという問題があります。国際的な市場マーケットのアクターとなっている中国企業のあり方が資本主義的なのか、という疑問です。

アメリカ合衆国の一極時代には、民主主義であり市場経済である、両者が一緒に広まっていったわけですが、そうしたビジョンが今日では後退しているのではないか。

今日は経済の話と権力、力の話が出てきたと思いますが、それを支える、ジャスティファイするビジョンの話。経済を価値、最後のものは象徴と呼び変えて、権力、価値、象徴の三点セットは、政治の三要素と言われるのですが、それを最後に加えさせていただきます。

結局、象徴つまりビジョンの部分が混迷しているので結論は出ないわけですが、ただし、今日のお話を聞いていて、やはりパノラミックな視点からBRICsをはじめとする様々な事象を考えていく必要はあるでしょうし、研究も進めていかなければならないことはよく理解できた、確認ができたと思います。

じつは我々のセンターが今後どうなるかわからない状況が生まれているのですが、できる限りこのような機会を設けて、またみなさまのご協力の下で、比較研究を深めていくことができればと思った次第です。どうも今日はほんとうにありがとうございました。